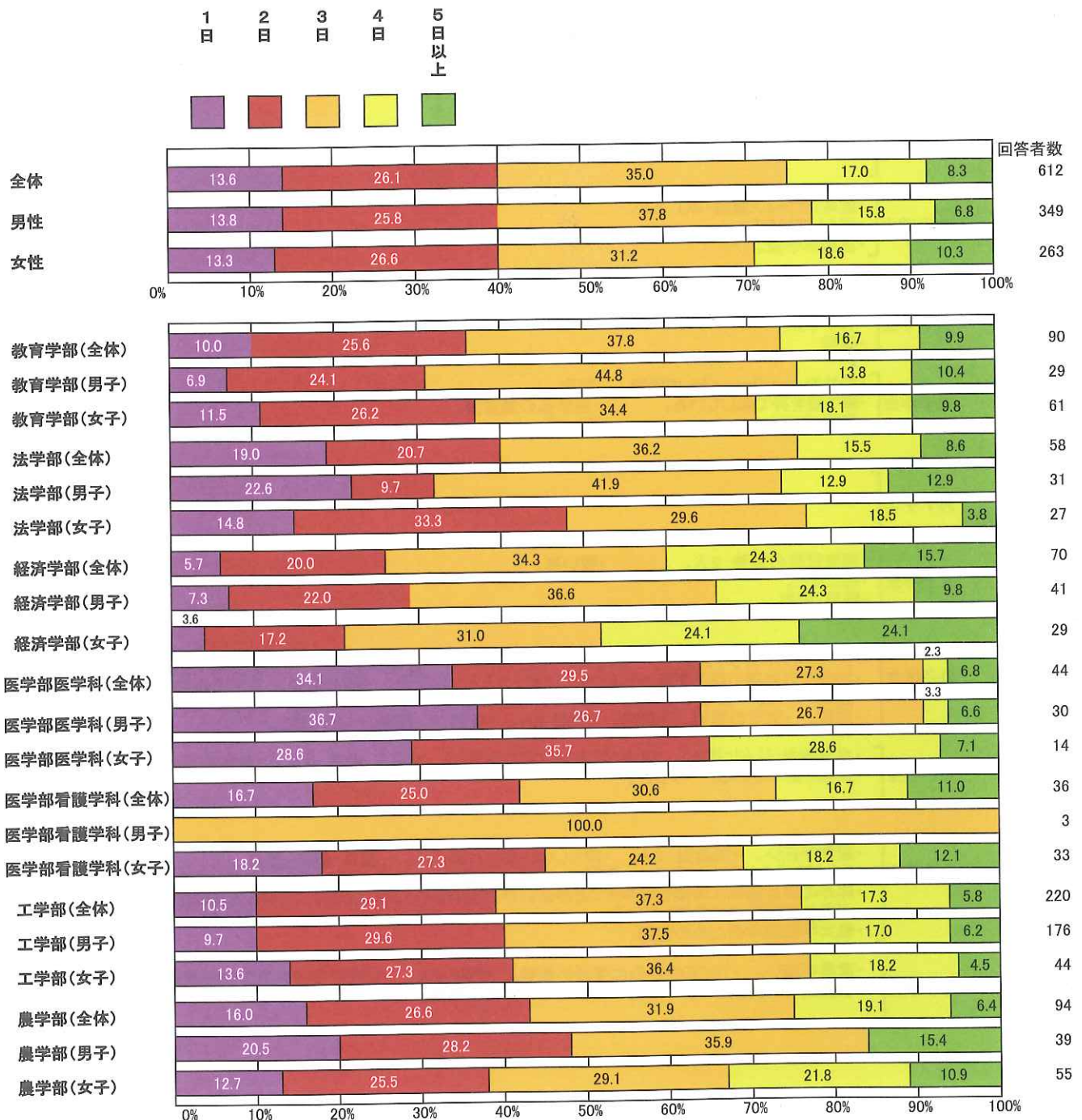


(4) アルバイトに従事する日数

問23 アルバイトをしている方におたずねします。1週間のうちアルバイトに従事する日数はどれぐらいですか。

学部、学科による差はあるが、アルバイトをしている方の中では、全体で、従事日数は週3日が最も多く(35%)、次いで週2日(26.1%)、週4日(17.0%)、週1日(13.6%)、週5日以上(8.3%)という結果であった。アルバイトをしている方のうち、およそ6割が週3日以上従事しており、学生生活の中でも大きなウエイトを占めていることが明らかになった。

〔図23〕

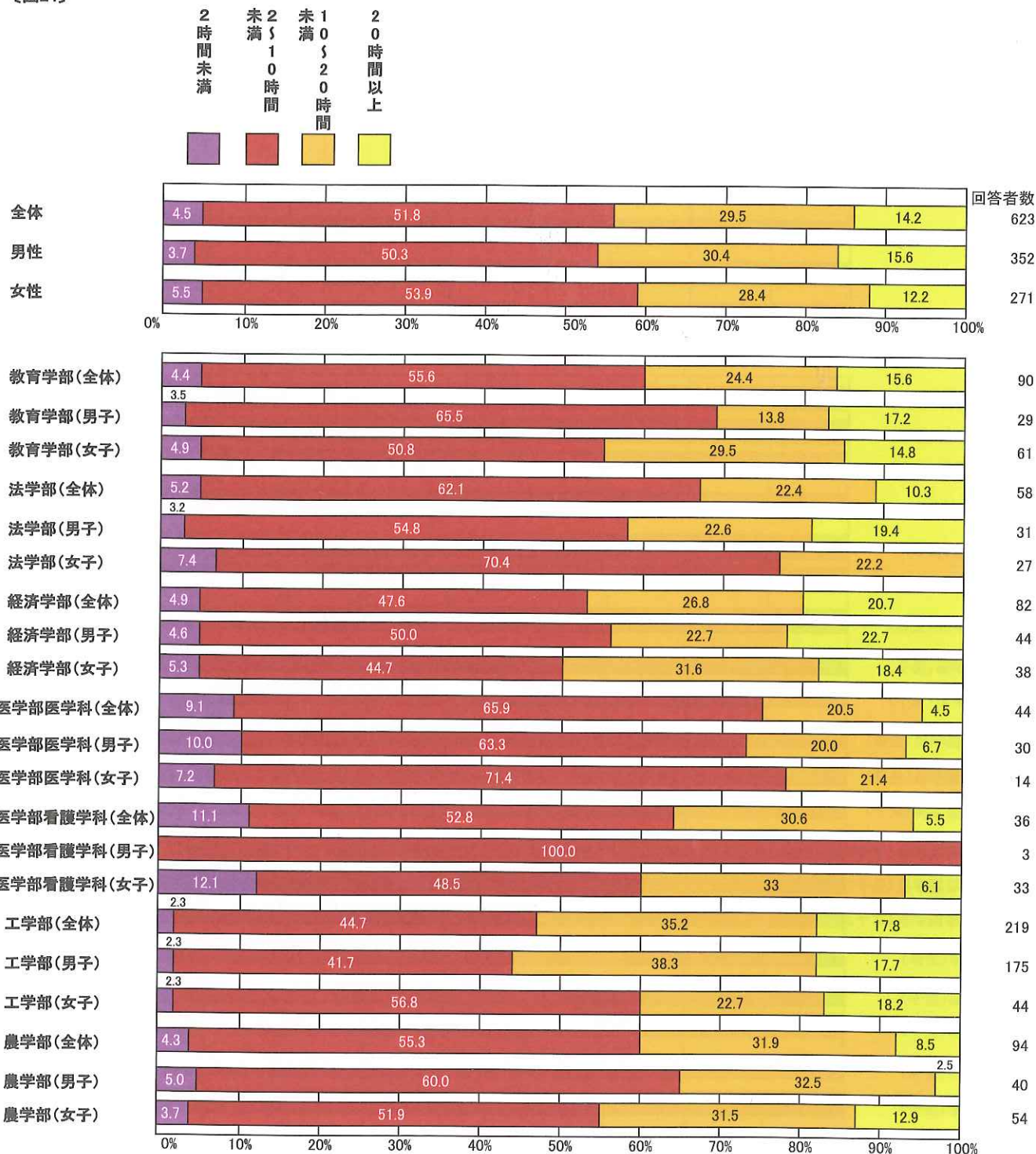


(5) アルバイトに費やす時間

問24 .アルバイトをしている方におたずねします。アルバイトに費やす時間はどれぐらいですか(通勤時間を含めた1週間当たりの平均)。

学部、学科による差はあるが、全体で、1週間当たりのアルバイトに費やす時間は2-10時間が最も多く(51.8%)、次いで10-20時間(29.5%)、20時間以上(14.2%)、2時間未満(4.5%)という結果であった。前回(平成23年度)の結果と比較して、2時間未満の割合が減少し(8%→4.5%)、20時間以上が増加した(9%→14.2%)。学生生活における適正なアルバイト時間、というのは個人により様々であると思われる。長時間のアルバイトに従事する割合が増えている要因として、経済的な理由なども含めいくつかあると思われるが、さらに詳細な検討、調査も必要かもしれない。

〔図24〕

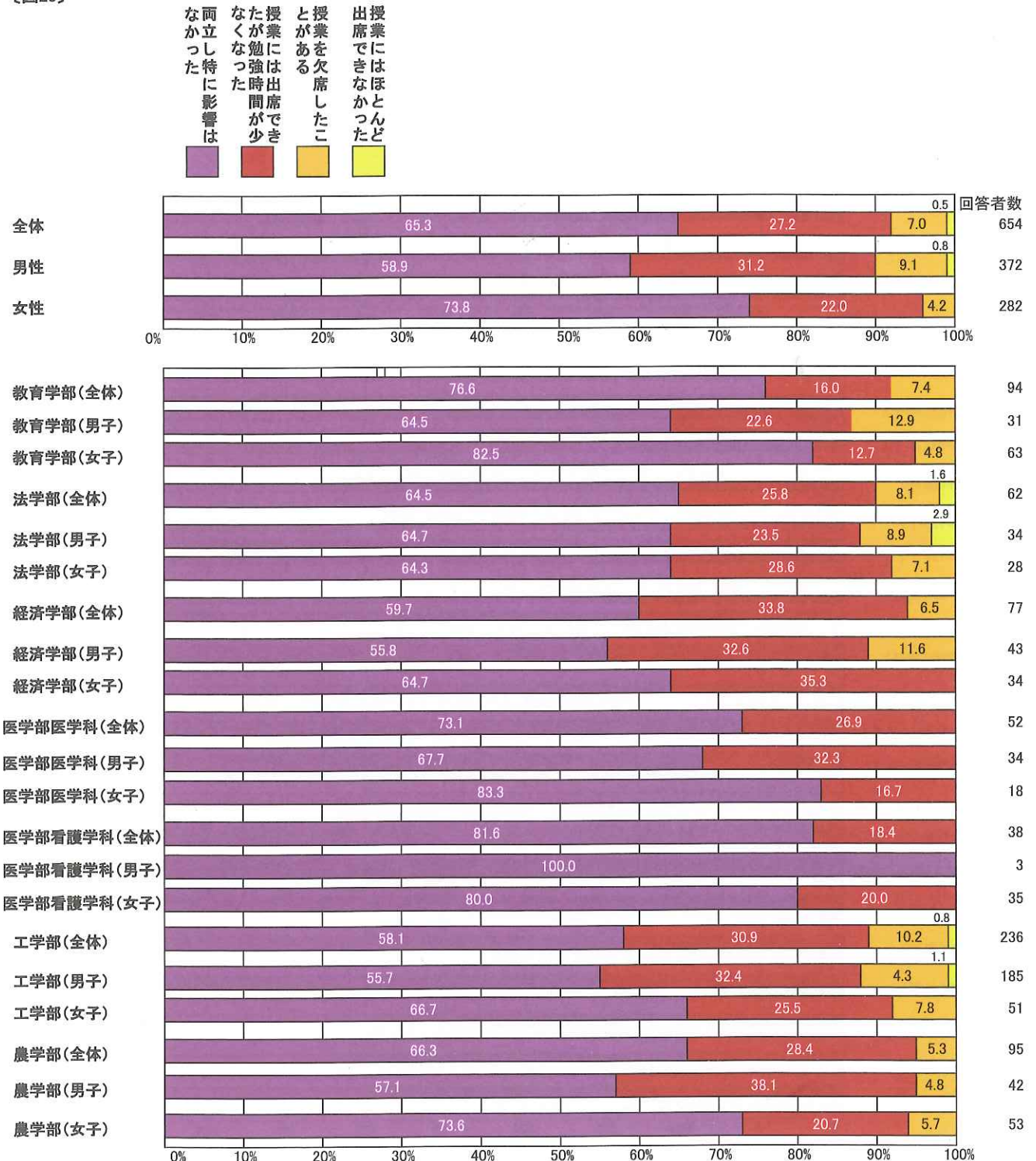


(6) アルバイトと学業の関係

問25 アルバイトと学業の関係はどうか。

学部、学科による差はあるが、全体で、学業との関係は「両立し影響はなかった」が最も多く65.3%、次いで「授業に出席出来たが勉強時間が少なくなった」(27.2%)、「アルバイトのため授業を欠席したことがある」(7.0%)、「授業にほとんど出席出来なかった」(0.5%)という結果であった。「勉強時間が少なくなった」も含め、何らかの形で学業に影響した学生は34.7%おり、前回の調査(平成23年度)から微増した。特に、「授業にほとんど出席出来なかった」学生に対しては、その理由について、「経済的な理由で日々のアルバイトに追われている」など詳細かつ具体的な調査を行った上で、1人1人に対するきめ細かな対策を早急に講じる必要がある。

〔図25〕

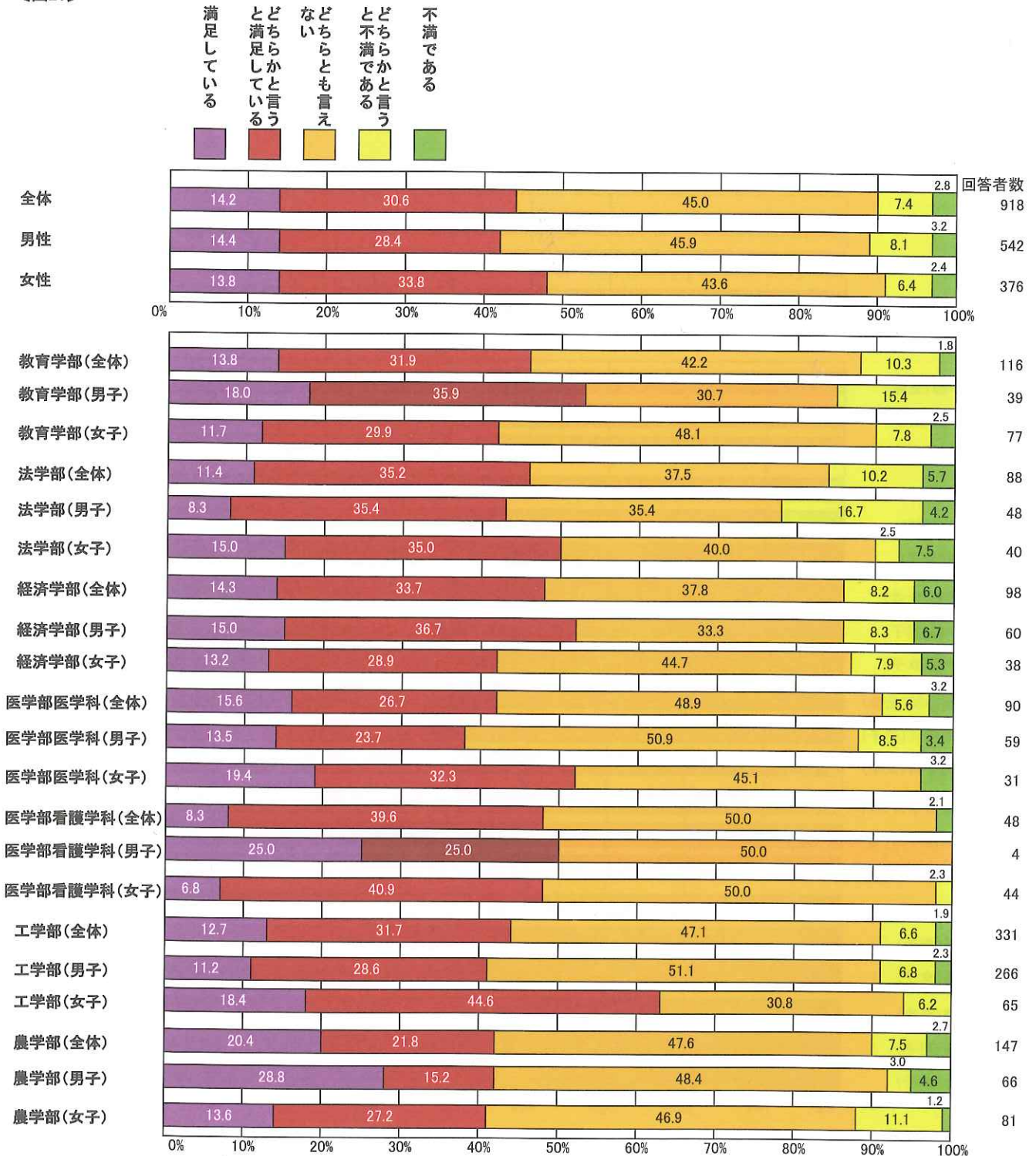


(7) 教員との交流

問26 .あなたは本学の教員との交流に満足していますか。

全体では「満足している」「どちらかと言うと満足している」の合計は44.8%で、前回(2年前)の調査(36%)と比較してもやや増加した。しかし、「不満である」「どちらかと言うと不満である」を合わせると10.2%が、さらに「どちらとも言えない」を含めたところ、学生の半数以上は現状の教員との交流に満足していないという実態が明らかとなった。もちろん、学部、学科による差はあり、学生の気質や個々の教員の取り組みなどの違いもあるものと思われるが、多くの学部で実施されている担任制の効果も出てきているものと考えられる。「どちらとも言えない」を含めた、現状の交流に満足していない学生と、いかに交流をすすめていくかが今後の課題であり、学生だけでなく教員の側にも積極的な対応が望まれる。

〔図26〕



(8) 学生窓口(各学部の学務係等)の対応

問27 あなたは学生窓口(各学部の学務係等)の対応に満足していますか。

全体では「満足している」「どちらかと言うと満足している」の合計は45.8%で、前回(平成23年度)の調査(45%)と大きな変化はなかった。しかし、「不満である」「どちらかと言うと不満である」を合わせると20.8%と、前々回(平成21年度)、前回と比較して満足していない学生は減少する傾向にある(30%→22%→20.8%)。これらの結果は学生窓口の担当者の努力に負うところが大きいと思われる。今後さらに、どのような点に不満であったかについての利用者アンケートなどを定期的に行った上で、複雑な手続きの簡略化や、案内や周知を頻繁に行うなど、よりきめ細かな対応を講じる必要があると思われる。

[図27]

